

平成 25 年度通常(第 1 回)理事会議事録

日 時： 平成 25 年 6 月 15 日(土) 14:30~16:30

場 所： 岸記念体育会館 505 会議室

出席理事:(敬称略、順不同)

河野博文、西岡一正、森山雄一、中川千鶴子、前田彰一、鈴木修、児玉萬平、斎藤渉、未木創造、松原宏之、中澤信夫、餅啓一、相澤孝司、森信和、坂谷定生、高間博之、山本嘉一、守本孝造、井川史朗、吉留容子、剝岩政次

以上 21 名

出席監事：浪川宏、栗原博、中村隆夫

以上 3 名

オブザーバー：黒川重男レース委員長、永井真美環境委員長、小山泰彦指導者委員長、大村雅一ルール副委員長、鈴木保夫外洋総務委員長、吉田豊外洋計測委員長、大坪明外洋安全委員長、豊崎謙広報委員

議事の経過及び結果

(定足数の確認)

理事 26 名、出席者 21 名により、定款 34 条に基づく定足数を充足しており、本理事会は成立した。

(議長による開会宣言)

定款 33 条に基づいて、河野博文会長が議長となり、平成 25 年度通常(第 1 回)理事会の開会を宣言し、議事進行を前田彰一専務理事に委任した。

(議事録署名人)

本理事会の議事録署名人として、議長指名により、餅啓一、坂谷定生の両理事が任命された。

河野会長から、平成 24 年度評議員会で決算承認された。重要案件につき、審議をお願いしたいとの挨拶があった。

<審議事項>

1) 平成 25 年度第 1 次補正予算(案)

斎藤理事から資料に基づき、平成 25 年度第 1 次補正予算(案)について説明があった。平成 25 年度予算策定後に確定した収支および見込金額が変更となる収支を反映するため、1 次補正予算案を策定した。

主な変更点は、管理費等は、総合賠償保険収入 2,000 千円から 1,200 千円、オリ強繰入収入 2,500 千円から 2,000 千円、旅費交通費支出 900 千円から 1,300 千円、渉外費 500 千円から 100 千円、会員プロジェクト支出 50 千円から 230 千円に、実態に合わせて

項目を修正した。制式艇種関係収支は、本年度 50 隻購入し、申込のあった県連に配布する。その収支見込みは、収入は特別積立取崩収入 18,500 千円、固定資産売却収入 17,500 千円で合計 36,000 千円とした。支出は、制艇関係支出(諸費用等)2,000 千円、舟艇購入支出 34,000 千円で合計 36,000 千円で、差引収支差額 0 円とした。なお、円安で 1 隻 20 万円程度の支出増加が見込まれ、50 隻で 1 千万円程度の当初見込み比増加となることから、本年度も寄付金募集を継続してお願いしたい。普及委員会は、日本財団助成事業がすべて採択されなかったため、収支とも 0 円に変更した。オリンピック強化委員会は、補助金等収入は申請額に対して減額認定となったため減額計上した。補助金等収入 101,717 千円から 75,406 千円(26,311 千円) 募金・寄付金収入は実態に合わせて減額計上した。寄付金・広告料収入 24,504 千円から 11,850 千円(12,656 千円) 事業費支出は、委託金・助成金の減額認定に伴い減額計上した。JOC 補助金支出 63,080 千円から 44,031 千円(19,049 千円) スポ振助成金支出 25,939 千円から 20,292 千円(5,647 千円) TOTO 助成事業支出 48,578 千円から 36,308 千円(12,270 千円)。なお、当初予算において TOTO に申請していた「調査・研究事業」と「スポーツ情報提供事業」は、本年度は実施しない。コーチ謝金に対する従来の連盟負担金(謝金額 1/3)は、本年度より JOC 負担となり当初予算 6,720 千円を 0 円に変更した。自主事業費・管理費支出・投資活動収支は実態に合わせて修正した。この結果、当期収支差額を 30 千円の黒字とした。

平成 24 年度決算は、実質的にほぼ収支均衡と判断できるが、本年度は当初予算において賛助会費・収益事業収入の増加を見込んでいるところであり、収入拡大への取組みのお願いしたい。また、制式艇種事業は円安により当初予想より 1 千万円超の支出増加が見込まれるため、さらなる募金努力が必要である。賛助会員の獲得にご協力いただける法人・団体・個人などを紹介いただきたい。また、オリンピック強化事業寄付金、環境事業寄付金も減少傾向を打破するべく理事各位のご協力をいただきたいとの発言があった。

坂谷理事から、環境委員会の全日本補助金について、補助金を支出する対象団体と規則があれば教えていただきたいとの質問があった。

前田専務理事から、過去の実績等でレース委員会と環境委員会で補助金額を決定している。環境スポンサーも減っているとの発言があった。

坂谷理事から、全日本がつくから補助金をいただけるとは限らないのか、環境キャンペーン報告書の提出はどのような条件で補助しているのか、年度当初に全日本補助金対象団体を決定できないのかとの発言があった。

黒川レース委員長から、本理事会協議事項で JSAF 補助事業(全日本選手権等)改善要旨を提出しているとの発言があった。

坂谷理事から、外洋総務委員会外洋レース支援 260 万円予算があるが支援事業内容を教えていただきたいとの発言があった。

児玉常務理事から、外洋レースへの支援事業費であるが、寄付金次第であることから

補正で対応していくとの発言があった。

坂谷理事から、支援事業費において、平成 24 年度の予算及び決算では、結果的に 1,500 千円（予算 2,000 千円、決算 500 千円）残しているので、予算といえども決算に近い予算を組んでいただきたいとの要望があった

満場一致で承認された。

2) 規則の見直し

鈴木常務理事から資料に基づき、諸規則の見直しについて説明があった。

倫理規程・倫理委員会規程制定に伴う JSAF 関連諸規程の見直しは、3 月 2 日理事会にて承認された倫理規程・倫理委員会規程制定に伴い、現行の JSAF 諸規程（懲戒規程、倫理規程案、倫理委員会規程案等）は、その対象を連盟役職員、連盟会員に特定しているため、連盟会員ではない者には当該諸規程が適用されない。よって「連盟会員ではない事実上の指導者等」の関係者が、連盟会員に倫理規程に違反する暴力行為等を行った場合には、現行の JSAF 懲戒規程では処罰できないという問題がある。一方で、RRS69 に基づく JSAF の処置に関する倫理委員会の役割を明記する必要がある。以上より、諸規定について修正をする。

「スポーツにおける暴力行為等相談窓口」の新設、並びに同処理規程の制定について、昨年来のスポーツにおける指導者の暴力問題に関連して、本年 3 月 JOC、日体協にそれぞれ「通報相談窓口」「相談窓口」が設置されている。JSAF としても今回の倫理規程、倫理委員会規程制定に加え、「スポーツにおける暴力行為等相談窓口」を新たに設置し、同処理規程を新たに制定することとする。JSAF は利用者が自ら通報窓口を選択できるようにするため、通報相談窓口を JSAF 事務局と JSAF が指定する弁護士事務所、山本隆法律事務所の 2 つ設定する方式とする。山本弁護士事務所とは契約ならびに独立性を担保することにする。

JSAF 定期表彰の見直しについて、受賞者の拡大方針に基づき、現行表彰基準を（表彰状筆耕料、副賞作成費用、表彰区分等）見直すことにした。日本セーリング界に貢献した団体・個人をより多く表彰し、今後の発展につなげるため、新たに優秀団体賞・功績賞を新設するとの発言があった。

満場一致で承認された。

<協議事項>

1) 日本セーリング連盟規程 3 (規則 69) の改定

大村ルール副委員長から資料に基づき、JSAF 連盟規定 3 の改定について提案があった。

新たに制定される倫理規定の規定に整合させるために、現行の JSAF 規程 3[規則 69] を RRS69 に基づく JSAF の処置に関する倫理委員会の役割を明記するべく改正するとの発言があった。

2) 日本セーリング連盟運営規則の改定(公認等申請の簡素化)

黒川レース委員長から資料に基づき、JSAF 補助事業(全日本選手権等)改善要旨について提案があった。

全日本選手権大会等の大会は、JSAF 運営規定に基づき JSAF 公認が必要である。公認にあたっては、レース委員会公認等審査担当で事前に確認した上で、承認をしている。しかし、大会後の報告書等は全日本補助金が予算化されているにも拘わらず、提出されない大会もある。これは情報の不達や手続の煩雑さが原因となっていると思われることから、公認等の審査に係わる一連の手続を改善する。改善要旨、ワンストップサービスでの対応を目指す。申請様式を JSAF 統合レース申請書として、JSAF 運営規則を変更する。JSAF ホームページに情報を公開し、関係者の注意を喚起する。審査基準はホームページで公表するとの発言があった。

永井環境委員長から、JSAF 補助事業(全日本選手権等)改善の方向性は理解している。補助対象大会と補助金額については、環境委員会で考慮している。環境に特化した事業も展開していきたいとの発言があった。

鈴木常務理事から、オープンレースでの JSAF メンバーのあり方を最近議論し始めたが、レース委員会の見解をお聞かせいただきたいとの発言があった。

黒川レース委員長から、JSAF 運営規則での全日本レベルのレースは参加条件は全員が JSAF メンバーと規定しているが、オープンレースは JSAF の姿勢を示すことが肝要であるとの発言があった。

児玉常務理事から、外洋レースは後援申請が多いが、申請手続きの不備などで迷惑をかけている。可能であれば、申請及び報告書の記載例など情報提供をお願いしたいとの発言があった。

黒川レース委員長から、現存するチェックリストでパターン化した例示が提供できるか検討するとの発言があった。

大坪外洋安全委員長から、外洋レース委員会ホームページで公示ガイド等を提示している。ここで記載例を掲載することを提案するとの発言があった。

守本理事から、主催・共催での責任所在も掲載いただきたいとの発言があった。

前田専務理事から、全日本補助金については判断基準が明確でなく作業中である。引き続き、レース委員会ならびに環境委員会で整理するとの発言があった。

< 報告事項 >

1) ルール委員会 上告否認の追加

大村ルール副委員長から資料に基づき、ルール委員会報告があった。

全国高等学校総合体育大会ヨット競技地区予選会の第 65 回関東高等学校ヨット選手権大会における上告否認が、大会主催者から RRS70.5 (a) ならびに JSAF 規程 4.1 に基づき申請があり、前回理事会の 3 大会と併せて追加承認したとの発言があった。

2) レース委員会 JSAF 公認・後援申請等

黒川レース委員長から資料に基づき、大会の共同主催・公認・後援の申請状況について報告があった。

3) 国体委員会 国体参加資格等

前田専務理事から評議員会で報告した資料に基づき、国体委員会報告があった。

平成 27 年開催の第 70 回国民体育大会和歌山国体から艇種変更が承認された。まだ普及していない状況で、各水域で講習会を開催していただきたい。国体参加資格は判断が難しいが、ウインドサーフィン級の参加者が特に少ないので、「ふるさと登録」制度などを有効に利用していただきたい。

4) 普及委員会 420 艇の配布等

前田専務理事から評議員会で報告した資料に基づき、制式艇種の普及に関する取り組みの状況について報告があった。

昨年度から配布作業を実施しているが、本年度も 50 艇を購入し、23 都道府県に配布予定である。420 購入寄付金は、本年度為替レートの変動により 1 艇約 20 万円購入価格があたり予算より 1 千万円を超える支出が見込まれることから、引き続き寄付金を募集しなければならない状況である。

5) 指導者委員会 公認指導者の更新

前田専務理事から評議員会で報告した資料に基づき、日本体育協会公認指導者資格更新について報告があった。

日体協の公認指導者資格(指導員・上級コーチ)は、4 年に 1 回更新手続が必要である。平成 25 年度から公認指導者の義務研修完全実施が徹底されたことにより、JSAF が認める義務研修に 4 年に 1 回は必ず参加していただきたい。その際には、開催する義務研修を事前に登録申請していただくよう依頼があった。

6) キールポート委員会 韓国セーリング祭典報告

中澤キールポート強化委員長から、2013 年韓国セーリング祭典の報告があった。

国際委員会の柴沼委員から提出された報告書に基づき、2013年韓国セーリング祭典の2大会について概略があった。南岸杯国際ヨットレースならび釜山スーパー杯国際ヨットレースに大会審判として参加した。地元のテレビ局がラジコンヘリコプターなどを駆使して、生中継で放映がされていた。また、釜山スーパー杯前日に「セーリングビジネスとその国際協力の効果」に関するシンポジウムが開催され、日本から富松氏が講演者として参加していた。レースは日本から参加した<ガスト>が優勝した。

また、資料に基づき、ISAF ネーションズカップ・アジア大会についての報告があった。6月にロシアのウラジオストクで開催された大会で、<シエスタ>の坂本チームが優勝した。1991年から日本からも参加している大会であり、今回は日本マッチレース協会推薦で参加したが、今後は日本代表チームとして出場できるようにオリンピック強化委員会で検討していただきたい。日本代表選手としてのステイタスやナショナルチームのチームウェアなどの支援をいただき、若いマッチセーラーに夢を与えていただきたいとの発言があった。

山本理事から、本年2月に大学対抗マッチレースで優勝した和歌山大学チームも<シエスタ>の坂本チームに指導を受けている。また、ジュニアセーラー育成に水域への貢献度も高いことから、JSAFとして支援していただくことを願っているとの発言があった。

西岡副会長から、以前から考慮しているが、引き続き検討していくとの発言があった。

7) 平成 25 年度臨時第 1 回理事会議事録

前田専務理事から資料に基づき、平成 25 年度臨時第 1 回理事会議事録(案)について報告があった。

<その他>

相澤理事から、東日本大震災の支援について東北セーリング連盟棚橋会長からの御礼が報告された。

児玉常務理事から、前回理事会で紹介したカーク・パターソン氏の<シルクパーツ>がホノルルを出航し函館に到着した。今後日本一周について各水域での協力要請があった。鈴木常務理事から、総務委員会でクラブに関する規則見直しの討議経過および団体加盟費の未払い催促について報告があった。

中澤理事から、過去参加している日中韓の親善レースについて今年は行事が重なるため中国での開催ができなくなったとの報告があった。

大坪外洋安全委員長から、日本からトランスパックへの出場予定、前回理事会で討議された PLB に関する総務省との話し合いなどについて報告があった。

永井環境委員長から、環境委員会の本年度活動として、予算の関係もあり絵画コンテストは中止したが環境コンテストを実施する予定との報告があった。

小山指導者委員長から、オリンピック招致委員会の事務局長の立場から 9 月 7 日東京招致が成功すれば、関係委員会と話をしていると報告があった。

吉田委員長から、外洋計測委員会として活動しているメジャーには、ERS 規則 H1.1 を遵守するよう利害関係のある計測は行わないよう指導しているとの報告があった。

平成 25 年度通常(第 1 回)理事会は、上記の通り議決ならびに承認されたことを確認し、議事録署名人は以下に記名・捺印する。

平成 25 年 6 月 15 日

議 長 会 長 河 野 博 文

議事録署名人 理 事 餅 啓 一

議事録署名人 理 事 坂 谷 定 生

副 会 長 西 岡 一 正

副 会 長 森 山 雄 一

副 会 長 中 川 千 鶴 子

専 務 理 事 前 田 彰 一

常 務 理 事 鈴 木 修

監 事 浪 川 宏

監 事 栗 原 博

監 事 中 村 隆 夫